

まごころ

with all our hearts

magokoro

Vol.

48

January
2012

東日本大震災で被災されましたみなさまに、謹んでお見舞い申し上げます。

▶ Customers Information お客様訪問レポート

農業生産法人 株式会社エコファーム 代表取締役 佐藤 正典 様

自社栽培している青葱をはじめ
カットしてもおいしい
野菜を提供していきたい

▶ Customers Information お客様訪問レポート

株式会社電通テック

イベント・スペース事業部 プロデューサー 成影 大 様

平清盛といえば神戸…をめざして
2012年「KOBЕ de 清盛/歴史館」開館!

▶ Report

顧客満足推進委員会

顧客満足推進委員会 企画営業部 次長 寺田 正一

出会ったすべてのお客様さまに
高い満足感を得ていただくために..

▶ Report

作業所レポート

作業所「ワコーレKOBЕ山の手」 工務部 主任 大高 設嘉

より一層の"プロ"になりたい

作業所「ワコーレプラザ御屋敷」 工務部 主任 鈴木 營伍

経験を積み、知識を蓄えていきたい

▶ Information

協力会社との合同懇親会を開催

「神戸マラソン2011」に2名が参加・完走!



自社栽培し カットしても 野菜を提供

Customer's Information お客様訪問レポート

農業生産法人 株式会社エコファーム
代表取締役

佐藤 正典様

市街地から車で1時間ほどのところにある、キャベツの大産地・神戸市西区岩岡。田畑が広がる閑静な風景のなかに、スーパーや外食産業に即すカット野菜を生産されている「株式会社関西三協」様があります。事業の発展に伴い現工場が手狭になったため、今後の展開を踏まえて大きな新工場を建設。社名も「農業生産法人株式会社エコファーム」に改名し、新たなスタートを切る代表取締役の佐藤正典様にその想いを語っていただきました。

16,000坪の畑で青葱を自社栽培

— 現在、さまざまな「カット野菜」を目にしますが、御社では主にもどのような野菜を扱われているのですか？ また、何かこだわられていることはありますか？

過去にはいろいろな野菜も扱っていたのですが、今は青葱が主軸。飲食店などの外食産業向けの「業務用カット葱」とスーパーなどの量販店向けの「カップ葱」を展開しています。当初は他所から仕入れていた青葱を、現在は近隣の畑で自社栽培しているのですが、16,000坪（東京ドームは約14,000坪）ほどの敷地一面に真緑の青葱が植わっている光景はなかなか圧巻です。より新鮮なものをお届けするために、その日の朝に収穫した青葱だけを加工して卸しています。

カットした商品の味が安定するように殺菌の濃度に気をつけたり、刃物の手入れやメンテナンスを頻繁に行っています。また、青葱以外の野菜に関しては、その時々が一番いいものを仕入れることにこだわっているため、あえて産地は決めないようにしています。

農業素人だからこそひとつの野菜に特化

— 「カット野菜」にもいろいろな種類があると思うのですが、そのなかでなぜ「青葱」を主軸にしようと思われたのでしょうか？

この会社を設立する前は、農業とはまったく関係のない仕事をしてきたのですべてが手探り状態でのスタートでした。そんななかでも当初はいろんな野菜を取り扱っていたんです。ただ、「カット野菜」の世界を知らず、農業に関しても素人同然の自分たちがいろんな野菜を多く取り扱うより何かひとつに絞った方がいいのではないか、と。そこで、他の野菜に比べると栽培

もしやすく、かつ1年通して収穫することができる青葱に特化することにしました。

— 農業を知らないなか事業を展開していくのは大変だったのではないですか？

何も知らない状態ではじめてので最初は大変でした。ただ、わからないことがあったとき、農業をされている周りの方々に聞く丁寧な教えられるんです。たとえば、この土地でものをやるならこの土地の土にある菌を使うといい、とか。そうすることで風土に合った、その土地ならではの味わいを持った野菜ができることを知りました。また、創業当初からずっと働いてくれているパートさんがいるのですが、最初のころは毎日遅くまで家のことを後回しにして一緒に働いてくれたんです。この方々がいなかったら今はないと思いますし、周りの支えがあったから大変な状況のなかでもやっていけたと思っています。

ここ10年で認知されはじめた「カット野菜」

— 周りの農業従事者のなかで「カット野菜」に携わっている方はいらっしゃったのですか？ また、当時は一般的にはどのくらいの認知度があったのでしょうか？

周りにはいませんでした。それどころか「カット野菜」と言っても誰にも理解してもらえず、野菜を切って売っていると説明すると「恥ずかしい」と言われたこともありました。それくらい世間には認知されていなかったんです。当時は、スーパーにはほとんど流通されていませんでしたし、飲食店などのバックヤードで使用されるのがほとんどでしたから。一般的に認知されてきたな、と感じるようになったのはここ10年くらいです。ただこの業界の歴史はまだ浅いですが…。

あお ねぎ ている青葱をはじめ おいしい していきたい



友人の死が決めさせた工場新設の覚悟 そして、新たなチャレンジへ

— さて、このたび工場を新設されましたが、どのような経緯で建設に至ったのですか？ 現在の経済状況のなかではとても大きなチャレンジだと思いますが…

現在、パートさんを含め約100名が作業をしているのですがかなり手狭になってきていました。何年か前に増築をしましたが、それでも使用する機械が大きいこともあり、人がすれ違えないような場所もあったんです。パートさんからもよく「狭い!」と言われていたので(笑)、もう少し広い工場を建てたいと思っていました。そんなとき、知り合いが工場建設可能な土地物件を教えてくださいましたのです。



平成24年春の竣工に向け施工中

ただ、新しい工場を建てたいという想いと同じだけ絶対に失敗できないという想いがありました。弊社の工場は365日稼働しているため簡単に手直しはできません。新しい工場を建てるということは新たな設備投資も必要になりますし、とても大きな勝負だと思いました。決断が下せず迷っていたとき、友人が病気になる半年後に亡くなったのです。その出来事が「自分もこの先どうなるかわからない。それならチャレンジしよう!」という覚悟につながりました。そして、できるなら兵庫県内の会社をお願いしたいと思っていたところ村上工務店さんを紹介していただいたのです。

— 新しい工場への移転を前に、会社としてこれから目指すこととは

ここ岩岡は日本でも有数のキャベツの産地でもあります。通常1玉で買うと少し割高になりますが、カットして加工することで手頃な価格で提供することができるのです。一番おいしい季節に、おいしいものを低価格で食べられる。今後、そんな個食用サラダを提供していきたいと思っています。



農業生産法人 株式会社エコファーム
〒651-2405 神戸市西区岩岡野中412-2

TEL: 078-967-2770 FAX: 078-967-2992 <http://www.808.jp>



平清盛とい 2012年「KOBEdo

次回のNHK大河ドラマの主人公は「平清盛」。その清盛とゆかりの深い神戸市兵庫区の旧神戸中央卸売市場跡地に、2012年1月21日「KOBEdo 清盛／歴史館」が誕生します。この歴史館では遺跡、出土品の展示などを通して、当時の暮らしなどあまり知られていない約800年前の神戸を紹介。運営を統括されている、株式会社電通テックのプロデューサー・成影様にそのコンセプトや想いを語っていただきました。

Customers Information お客様の訪問レポート

株式会社電通テック
イベント・スペース事業部 プロデューサー 成影 大様

神戸を明るくするイベントを続けていきたい

— 今までさまざまなイベントを企画・統括されてこられたそうですが、神戸でのイベントは今回はじめてですか？

「神戸ルミナリエ」は1995年の初回からずっと携わらせていただいていますし、話題になった第1回の「神戸マラソン」にも関わらせていただきました。他にもライブアップイベントなど様々なイベントを制作させていただきました。中でも、一番思い入れが強かったのは初年度の「神戸ルミナリエ」でしょうね。生まれ育った神戸の復興のためのイベントに直接関われるというのは大変うれしいことでもありましたし、ありがたいことでした。

私は、神戸に住んでいながらあの震災を体験していません。前日まで旅行をしていてちょうど大阪まで戻ってきたときに地震が起きました。電車と徒歩でなんとか神戸まで戻ったものの、すぐに会社が用意してくれた京都のホテルへ。神戸であれだけの震災が起こっていても、会社は大阪、豊田からは普通に業務がありましたから。皆さんが大変な想いをしているときに、神戸に住んでいながらそこにいない自分。大阪と京都を往復しながら普通に仕事をしていることに対して申し訳なさのようなものを感じていました。そんなとき、「神戸ルミナリエ」の話が持ち上がり「現場を担当してくれないか？」という依頼がありました。これこそ震災からの復興のため日々がんばっている神戸の人たちのために自分ができることなのではないかと、強く感じました。

— 真っ暗な三宮の街に鮮やかに灯った光はとても感動的でした。あの瞬間は、どのように感じられたのですか？ また、16年間取り組み続けた今、想いはどう変化されたのでしょうか。

米場された方から「感動して涙が出た」というお声をたくさんいただきましたが、点灯の瞬間には、私も、そしてご協力いただいた多くの方々も涙を流していました。本当に感慨深いものがありました。よく、「初年度が一番豪華できれいだった」と言われるのですが、実はそんなことはないんです。過去の

写真を比較していただくとわかるのですが、初年度以降、作品のボリュームは増えています。ただ、街も心も1年間続いたあの暗闇のなかで初めて灯ったあかりだったからこそ、きっと皆さんの目にそう映ったのだと思います。

今では震災を体験していなかったり、記憶していない世代も増えてきました。「ルミナリエ＝クリスマスイベント」のように思われる方もいますが、本来の目的は震災犠牲者への鎮魂。あの年からどのような想いではじまり、多くの方々に支えられ、現在に至っているのか。そういったことをきちんと伝えていきたいですし、スタッフにも初年度の想いを語り続けていきたいと思っています。何より、神戸を明るく照らす復興と希望の象徴として、出来る限りずっと続けていきたいと思っています。

「平清盛」を通して神戸の歴史を体感してほしい

— そういう意味では、今回の「KOBEdo 清盛」も、違った意味で神戸を明るくするイベントになりますね。

そうですね。今回の「KOBEdo 清盛」はある教訓を踏まえてはじまったイベントでもあります。以前、大河ドラマで「坂本龍馬」が取り上げられていたときのこと。「坂本龍馬の史跡で訪ねてみたい場所」というランキングの上位に「神戸海軍操練所」がランクインしているながら具体的な取り組みはありませんでした。神戸市では、その経験を糧に、大河ドラマ放送を契機に平清盛の史跡や歴史を通して神戸の歴史的価値およびその魅力を伝えていこう、と。

— 一番苦労されたことやこだわられた部分もあったと思いますが…

「KOBEdo 清盛」という現代的な響きから、来場いただいた方々に、どのように800年前、当時の神戸の風景を思い起こしていただくか？メインビジュアルやコンセプトワークを決めていくのが一番大変でしたね。ロゴマークの赤色も平家が

えば神戸...をめぐして de 清盛／歴史館」開館!



「KOBEd清盛／歴史館」会場イメージ図



平清盛「KOBEd清盛2012」ロゴマーク

使用していたであろう染料の色を調査し再現するなど、当時の空気感が少しでも伝わるようにとこだわりました。

— 間もなく「歴史館」もオープンしますが、プロデューサーとしてのこのようなことを感じてもらいたいと思われませんか？

まだまだ、人々の意識のなかに「清盛」といえば「神戸」というイメージがないし、清盛が生きた平安後期の神戸のイメージはありません。800年前の神戸で大鎧を着けた武士同士の命を賭けた戦いがあった、なんて知っている人はほとんどいないでしょ？ でも、さまざまな歴史がこの地に刻まれ清盛の志が現在の神戸に脈々とつながっているのです。そういった神戸の歴史に触れその価値を知ってほしいですね。今回建設した「歴史館」に展示される品々を通して平安時代の暮らしを感じ、館を拠点に清盛ゆかりの史跡を巡りながら、当時の神戸や人々、清盛に想いを馳せ、その歴史を疑似体験してもらいたいと思っています。

— ところで、どのような経緯で、今回のこの「歴史館」建設を弊社にご依頼いただいたのでしょうか？

会社には様々な協力会社さんとのつながりはあります。ただやっぱり、神戸の仕事をするなら地元神戸の会社さんと一緒に仕事がしたいと思ったんですよね。そんなとき、知り合いから村上工務店さんのお名前を聞きました。いろいろ調べてみると、ルミナリエの通り沿いの、オリジナリティのある建物だと思って気になっていた物件が偶然にも村上工務店さんが建てられたものだったんです。そういった自分自身を感じていた好感や周りからの評判など様々な要素が重なり、ぜひお仕事を一緒にと断念しました。工事がはじまってから

も地元ならではの手厚い対応をしていただき本当に感謝していますし、お願いしてよかったと思っています。

— 「KOBEd清盛／歴史館」は期間限定の展示館となるそうですが1年で閉館してしまうのはもったいないですね。

1年で壊してしまうのではなく、新たにいろいろな要素を加味して清盛の常設展示館を実現できれば、と思っています。そのときはぜひまた村上工務店さんと一緒に作業をしたいですね。そのためにも、とりあえずこれからの1年をかけて皆さんの意識のなかに「清盛＝神戸」とイメージが根づくように取り組んでいきます。まずは地元の方々にそう思ってもらえることが大切なんです。期間中には、さまざまなイベントなども企画していこうと思っています。

— 清盛のイベント以外に今後やってみたいことはありますか？

まだ人が見たことのないようなことをここ神戸の地でやりたいですね。イタリアの「ルミナリエ」、フランスの「クロモリット」など海外から新しいものを取り入れてきました。そういった「受け入れる」という素地と「おもしろそう、やってみよう」という寛容さ、神戸という街にはそういうものがあると思います。しかし、今度は神戸から世界へ向けて発信していけるようなこと、神戸発のイベントをプロデュースしてみたい。それが今の夢ですね。

— ありがとうございます。

「KOBEd清盛／歴史館」

神戸市兵庫区中之島2丁目 中央卸売市場西側

<http://kobe-de-kiyomori.jp/>

「KOBEd清盛」推進協議会 TEL.078-322-6381 FAX.078-322-6138

顧客満足推進委員会

出会ったすべてのお客さまに 高い満足感を得ていただくために..



「顧客満足推進委員会」とはその名の通り「お客さま」により一層の「満足」を感じていただけるように既存サービスの向上や、新たなサービス提供のための取り組みを推進しています。具体的な取り組みや今後の展望について「顧客満足推進委員会」の寺田委員長に聞きました。

顧客満足推進委員会
企画営業部 次長 寺田 正一



顧客名簿を整理・データベース化。 積極的なアフターサービスの足がかりに

創業してから現在に至るまで、“建築”を通してさまざまなお客さまにお世話になってきました。そうして出会ったお客さまに一層ご満足いただけるサービスを提供するため、2010年度より顧客名簿の整理をスタート。創業時からの名簿ということで膨大な量でしたが、翌年に作業を終え整理し直した名簿はデータベース化しました。現在は社員の誰もが使えるような仕組みになっています。

この顧客名簿を元にお客様への定期訪問を推進。過去に建てさせていただいた建物の診断チェックなど、積極的なアフターサービスの実施に力を入れています。

平成元年より社内報「まごころ」を発行 お客さまや社内外関係者に有益な紙面づくりを

当社では「まごころ」という社内報を年2回発行しています。主に、お世話になっているお客さま、当社の作業所などのインタビューや会社行事などの記事をメインに構成。社内のみならず、日ごろお世話になっているお客さまや社内外関係者にも配布しています。

平成元年5月に創刊されてから今回で48号目を迎えます。当初

は今と違い、社内の出来事や社員のニュース記事を1枚のタブロイド判にモノクロで掲載した簡易なものでした。ところが、いつしか「せっかく作るなら、社外の関係者の方にも読んでもらったら..」といった風潮に。ページ数を増やしながら作業所や協力業者さんを訪問して職人さんに話を聞いて記事にしたり、徐々に对外発信を意識した内容へと変化。そして、お客様のインタビュー記事や当社の作業所や会社行事の紹介をメインとした現在のスタイルに落ち着いたのです(写真参照)。



年2回の発行とはいえ、掲載する内容には毎回悩みます。そのなかでもマンネリにならないよう特色のある記事の掲載を心がけながら取り組んでいます。次次号で創刊50号。今後も、お客さまや社内外関係者によって有益かつ個性を感じられる紙面づくりを行っていきたいと思っております。

Information
社内ニュース

協力会社との合同懇親会を開催

昨年の11月25日(金)、協力会社「村栄会」と当社社員の合同懇親会を開催しました。不定期で開催している懇親会ですが、今回は「村栄会」会員様58名と当社社員57名、総勢115名が当社4階大会議室に集い、楽しいひとときを過ごしました。

当社の事業は多くの協力業者や職人の方々の協力によって成り立っています。この懇親会は、そんな皆さんとの絆を強固にし、より良い協力関係を築いていくことを目的に開催しています。終始、和気あいあいとした雰囲気のなか、多くの方々への感謝を伝えることができ、大変有意義な会となりました。



今後もお客様に喜んでいただくため、村栄会および当社社員共に一致協力しよりよい施工を行ってまいります。

Information
社内ニュース

「神戸マラソン2011」に2名が参加・完走!

昨年11月20日(日)に開催された「神戸マラソン2011」。2万5000人におよぶ参加者に混じり当社社員2名(総務部:村上貴洋課長代理、リノベーション部主任:中里整敬)も参加、完走を果たしました。

村上「フルマラソンは今回が2回目。所々狭い道もありましたが、神戸のいいところを見ながら走れるし市民ランナーにとっては走りやすいコースでしたね。タイムは3時間46分57秒。目標の3時間半には届かなかったけど、初めてフルマラソンを走ったときより22分タイムが縮まっていたのでよしとしようかなど(笑)。2回目があれば、またぜひ走りたいです!」



中里「フルマラソンは今回が初めてでしたが沿道の子どもたちの声援がすごい力になりましたね。その声に応えるように全員とハイタッチしたりしてね(笑)。ただ、30kmを過ぎたころから足の負担を感じるようになり、40km辺りまでは歩いたり走ったり。無理をしたら完走できないので足の調子を見ながら進みました。ゴールしたときは安堵感と達成感でいっぱいでしたね!」

作業所レポート①



より一層の"プロ"になりたい

神戸市長田区、神戸電鉄有馬線丸山駅のほど近く、閑静な住宅街に建つ「ワコーレKOBE山の手」の大規模改修工事で指揮を執る所長に話を聞きました。

作業所 「ワコーレKOBE山の手」
大規模改修工事

工務部 主任 **大高 設嘉**

— 口数は多くないが、整理された言葉でわかりやすく話す。その言葉の端々に見える成長を欲する飽くなき向上心。そのはじまりは今から8年前に遡る

「所長として初めて自分で物件を持ち、若い部下がつかえました。当たり前ですが、所長の上には誰もいないからすべてを自分で決めていかないといけないんですね。そのときに、成長していくためには自分自身が変わらないといけないと強く思いました。その想いは今も根っこにあるでしょうね」

— 常に視線を上げ高い目標に向かう。今後どのようなステージを見ているのたろう
「より一層の"プロ"になりたいですね。そのために毎回現場ごとのノートをつけているんですよ。あいつに聞けばなんでもわかる、と相談されるような人になるためにも。そしていつか国に残る施設(野球場、サッカー場など)をやって自分の名前を残せたら幸せですね」



作業所レポート②



経験を積み、 知識を蓄えていきたい

神戸市長田区の大規模マンション「ワコーレプラザ御屋敷」の大規模改修工事に携わる所長が、淡々と、でも真摯な情熱を感じるお話を聞かせてくれました。

作業所 「ワコーレプラザ御屋敷」
大規模改修工事

工務部 主任 **鈴木 營伍**

— 普段からあまり話さない、というほど口数が少ない。ただ、大規模改修工事を通して人とのコミュニケーションが密にはなった、と話す

「大規模改修に携わるようになって人との接し方を学びました。もともと口数は多い方ではないんです。ただ、新築と違って日々住民の方々と顔を合わせるため、自分から率先して話すようになったんですね。そしたら話しかけやすい雰囲気が出てきたみたいで、いろんなことを質問されるようになり、自然と密なコミュニケーションが取れるようになりました」

— ぼつりぼつり淡々と話す。しかしその裏には「形に残るものをやりたい」という静かな情熱も燃えている

「もっといろんな経験を積んで新築物件をやってみたいんですね。そのためにも自分のなかにもっともっと知識を蓄えていきたい。ただ、知識は経験によって培われていくもの。今はとにかく目の前の経験をひとつずつ積んでいこうと思っています」





ワコーレ長田ディアコート
発注者:和田興産株式会社様
2011年9月
長田神社を中心とした人々の活
気と情緒にあふれた長田町一丁目。
街のランドマークにふさわしい全
36邸の新たなライフステージが
完成しました。



ワコーレKOBEDaikutsu
発注者:和田興産株式会社様
2011年2月
兵庫区Daikutsuに多彩な生活
様式を満たしながら幸福なふ
れ合いのできる全36邸のファミ
リーステージが完成しました。

Gallery 2011

当社が施工させて頂きました建物の一部をご紹介します。※敬称略



メンテナンスショップ

PC16・17建築施設等整備工事
発注者:神戸港埠頭株式会社様
2011年3月



マリンハウス

阪神港の国際コンテナ戦略として神戸港ポートアイランド(第2期)地区の
岸壁PC14~17の改良工事に伴ったPC16・17の整備工事。



サンワプラザ神戸Daikutsu大規模修繕工事
発注者:サンワプラザ神戸Daikutsu管理組合様
2011年5月

お住まいの方々から多大な
ご協力を頂き無事、大規模修繕を完了しました。



エスリード本山大規模修繕工事
発注者:エスリード本山管理組合様
2011年6月